

2019年度秋学期 研究者交流支援制度報告書

農学部専任教授（土地資源学研究室）

登尾浩助（naboriok@meiji.ac.jp）

外国人研究者氏名：Tyson Edward Ochsner

所属機関：Oklahoma State University, Stillwater, OK, U.S.A.

職位：Professor of Applied Soil Physics

プログラム期間：2019年10月21日から2019年10月30日（10日間）

招聘した Ochsner 教授は、宇宙線を使って半径数百メートルの範囲の土壌水分量を測定する技術を確立し、地元オクラホマ州全域をカバーする広域土壌水分測定網を実現した著名な土壌物理学学者です。さらに、Ochsner 教授はオクラホマ州立大学内に新たに設立された Rural Renewal Institute の中心メンバーであり、我々が福島県飯舘村で取り組んでいる農業復興支援事業と共通する点が多いことが判明しました。本招聘によって学部間交流協定の締結と Rural Renewal Institute を中心とした共同研究及び学生交流のための協議に入ることになりました。

滞在期間中は研究室に所属する大学院生の研究指導補助を熱心に行いました。来年度には大学院博士後期課程の大学院生がオクラホマ州立大学を短期訪問して、先方の研究に参加することが決まりました。また、10月22日に実施した凍結及び寒冷地現象シンポジウムにおいて「In Situ Monitoring of Soil Thermal Properties and Heat Flux during Freezing and Thawing」と題した講演を行いました。10月26日にはつくば市で開催中であった土壌物理学学会講演会に出席し、土壌物理学関連の日本の大学・研究機関に所属する研究者及び大学院生と熱心な議論を行いました。帰国前日の10月29日には福島県飯舘村を訪問し、2017年3月末に避難指示が解除されて帰村した村民家族に聞き取り調査を行いました。その後、我々が飯舘村で農業復興支援のために実証実験中の点滴養液土耕栽培支援システムの見学をしました。

お陰様で今後益々活発な交流の緒になる招聘でした。このような機会をいただき大変感謝しています。



凍結及び寒冷地現象シンポジウムの閉幕まで残った参加者。前列左から3人目が Ochsner 教授。